第３章　全体構想

◆計画の体系◆

将来推計
２０３０年
人　口：約７万４千人
15 歳未満比率：11.7%

都市づくりに向けた主要課題（→P.1～3）

1．伊賀らしい都市景観や歴史・文化の維持

2．人口減少の中でも暮しやすい都市構造の実現

3．魅力的な居住環境と働く場の確保

4．自然災害等に強い安全な都市構造の実現

5．広域連携の促進

6．地域参加の都市づくりの推進

将来の都市のイメージ

（→P.5）

伊賀市の将来都市像

市民力による内発的発展をめざす

『伊賀流多核連携型都市』

都市づくりの目標（→P. 6）

- 目標1　都市の魅力継承と更なる向上
- 目標2　都市の拠点機能強化
- 目標3　魅力的居住環境の確保
- 目標4　広域連携も含めた多様なつながりの実現
- 目標5　魅力的働く場の確保
- 目標6　都市の安全・安心の向上
- 【目標７】　市民・地域等との協働・連携の強化

将来の都市構造　（→P. 7～23）

歴史・文化
◆歴史・文化軸（旧街道と宿場）
◆歴史・文化拠点（上野城下町、神社・寺を中心とした歴史的風致）

自然環境
◆緑のリンクとしての大盆地の風景
◆ヒューマンスケールの心地よい小盆地の風景
◆川の風景

都市拠点の形成
◆広域的拠点内重点地区
（上野中心、上野南部）
◆副次的拠点（ゆめが丘）
◆地域包括拠点
（新堂駅周辺、青山町駅周辺）
◆地域拠点
（島ケ原、阿山、大山田）

居住地の形成
◆拠点型居住地
（広域的拠点、副次的拠点、地域包括拠点、地域拠点、公共交通活用拠点）
◆地域型居住地
・服部・西明寺沿道
・既存集落及びその周辺
・郊外住宅団地

ネットワーク
◆広域連携軸
◆圏域内連携軸
◆圏域内環状軸
◆地域連携軸
◆圏域間連携軸

◆知的対流拠点
（ゆめテクノ伊賀、道の駅あやま周辺、伊賀上野観光協会ＤＭＯ、伊賀ふるさと農業協同組合等）

◆災害対策重要地区
・拠点型居住地の洪水浸水想定区域
◆広域的医療福祉区域
・成和中学校跡地

都市づくりの戦略方針（重点項目）（→P24～56）

- エリアを対象にした都市づくり
  - 上野中心広域的拠点のまちづくり
  - 上野南部広域的拠点のまちづくり
  - 地域包括拠点・地域拠点のまちづくり
- 魅力的な居住環境と働く場の確保

都市整備の方針（イメージ実現のための方針）　（→P.　）

- 土地利用の方針（→P.　）
  - 基本方針
  - 土地利用区分及び配置方針
  - 用途地域見直し方針
- 市街地整備の方針（→P.　）
  - 基本方針
  - 市街地整備の方針（都市拠点）
  - 市街地整備の方針（拠点型居住地・産業拠点）
- 都市施設整備の方針（→P.　）
  - 交通施設整備の方針
  - 公園・緑地の方針
  - 上下水道の方針
  - 河川の方針
  - 情報ネットワーク整備の方針
  - その他の都市施設の方針
- 景観・歴史まちづくりの方針（→P.　）
  - 基本方針
  - 景観計画との連携方針
  - 歴史的風致の継承
- 都市防災の方針（→P　）
  - 基本方針
  - 都市防災の強化
  - 自助・共助を基本とした防災対策の推進